



■成果指標

指標	単位	現状値		実績値				目標値
				R4	R5	R6	R7	
1	関係分野における文化芸術の活用事業数	事業	13	R3	13	14		16
2	文化会館自主文化事業にかかる参加・入場者数	人	1,953	R2	10,797	15,866		15,000
3	市主催等の公募展への出演・出展者数	人	156	R2	145	133		200
4								
5								
6								
7								
8								

■市民アンケート調査

項目		現状値 [R2]	1次 [R5]	2次 [R6]	市民アンケートの考察
1	芸術や文化に関わる機会が充実している	重要度	0.63	0.72	コロナ禍により、文化芸術活動が制限される中、本項目への重要度はますます高まっている。満足度は低いながらも、コロナ禍においても文化会館と連携し、成果発表や鑑賞・体験の機会を継続して市民に提供した結果が、微増につながっていると拝察される。
		満足度	▲ 0.64	▲ 0.50	
2		重要度			
		満足度			
3		重要度			
		満足度			
4		重要度			
		満足度			

■施策推進 [施策の方向]

施策の方向	施策推進に関する考察
① 文化芸術施策の推進	「かめやま文化年2024」の開催に向け、実行委員会を9回開催し、事業内容等を決定することができた。まちの賑わいや魅力の創出につなげるべく事業を進めていく。
② 文化芸術の拠点づくり	文化会館の定期調査に基づく修繕や音響機器の購入などの機能整備により、市民の施設利用の促進に努めた。今後も計画的な機能整備を図っていく。
③ 文化芸術活動の活性化	文化会館と連携し、文化芸術活動の成果発表の機会の創出と優れた文化芸術の鑑賞・体験の機会の提供を図った。今後もこれら機会の充実を図っていく。
④	
⑤	
⑥	
⑦	

総合評価

文化芸術施策の推進については、令和6年度に「かめやま文化年2024」を開催するため、かめやま文化年実行委員会を設置し、9回の会議を開催する中で、コロナ禍で活動が制限された子どもたちの文化芸術活動への参画拡大が図られるよう、キャッチコピーを「まちがにぎわい こともがわらう」と定めるとともに、文化の継承と創造を育む事業内容を決することができた。また、ロゴを決定し、ホームページを開設することで、事業の周知準備ができた。文化芸術の拠点づくりについては、文化会館の定期調査に基づく外壁の軽微な修繕や舞台用デジタルミキサー等の音響機器の購入など、機能整備を図り、市民の施設利用の促進に努めた。文化芸術活動の活性化については、市民俳句会の開催や文化会館フェスタなど文化会館との連携により、文化芸術活動の成果発表や鑑賞・体験の機会の提供を図ることができた。また、市芸術文化協会との連携及び財政支援により芸文祭等が行われたが、近年、会員の減少がみられることから、組織存続に向けて、会員の発表機会や学校及び放課後子ども教室へのアウトリーチ等を増やすことにより、組織の活性化を図って行く必要がある。市展については、多様な体験・鑑賞の機会の充実につながったものの、出展者数が若干減少したことから、更なるPR等の強化を図り、文化芸術活動の成果発表の機会の創出と気軽に文化芸術に親しむ機会の充実を図っていく必要がある。

B

まずまず進んだ

今後の展開方針

文化芸術施策の推進に向け、かめやま文化年事業については、実行委員会、市、文化芸術活動団体等の3つの主体による事業展開を図ることにより、コロナ禍で活動が制限された子どもたちの文化芸術活動への参画拡大を図るとともに、文化の継承と創造を育む事業を開催し、文化芸術を生かしたまちづくりの推進を図っていく。文化芸術の拠点づくりについては、核となる文化会館の計画的な機能整備を図り、市民の施設利用の促進に努める。文化芸術活動の活性化については、市展等の開催により、市民が文化芸術活動に関わる機会を創出していくとともに、トリエンナーレ実行委員会や亀山市芸術文化協会など、文化芸術活動を行う団体との連携及び支援を通じて、文化芸術に優れた人材の育成や文化芸術の交流による賑わい・魅力につなげる。